

FリーグとJ2リーグの観戦者比較研究
～府中アスレティックFCと東京ヴェルディ1969に注目して～

The comparative study on the spectators of F league and J2 league
～a case study on Fuchu Athletic FC and Tokyo Verdy 1969～

1K10C467-4 吉田 剛
主査 原田宗彦先生 副査 間野義之先生

【目的】

本研究の目的は以下の2点である。

1、Fリーグの府中アスレティックFCとJ2リーグの東京ヴェルディの観戦者やファンを比較、検証することを通して、Fリーグの観戦者やファンの特徴を明らかにすること。

2、Fリーグのクラブにおける地域愛着 (Place Attachment) とチームアイデンティフィケーション (Team Identification) の関係性を、以下の仮説1、仮説2を検証することを通じて、明らかにすること。

【方法】

研究の目的を明らかにするために、本研究ではFリーグ2013/2014 powered by ウイダーinゼリー (日本フットサルリーグ) 公式戦で、観戦者調査を行った。

調査日は2013年11月9日 (土曜日) で、対戦カードは府中アスレティック (ホーム) FC 対バサジィ大分 (アウェイ) である。

観客数は公式発表で702人。配布数は201部で、回収数は170部、有効回答数は160部であった。

本研究におけるすべてのデータおよび統計的処理は、統計解析ソフトウェアのSPSS 21.0 for Windowsを用いた。

分析にあたり、仮説を2つ設定した。チーム愛着と地域愛着に関して、Trail et al. (2003) は、関与レベルが異なるファンと観戦者ではスポーツ観戦の動機が異なり、チームに対する愛着に違いがみられることを述べている。また、二宮 (2011) は、「スポーツ観戦に対する関与が高いファンほど地域への愛着が強いことを明らかに」している。この2点から、仮説1「応援継続年数の長いファンほど、チームへの愛着が高い」、仮説2「応援継続年数の長いファンほど、ある一定の地域への愛着が高い」を設定した。

【結果】

目的1に関して、府中アスレティックFC観戦者は東京ヴェルディ観戦者と比べて、女性が多くひとりで来場する観戦者が多かった。また、観戦者の64.0%が府中市民で、アクセス時間が短く、公共交通機関を使う割合が低かった。

情報入手手段の項目では、東京ヴェルディと比べて友人・知人・家族の割合が高く、いわゆる「ロコミ」で情報を得ている観客者が多いことがわかる。

サッカー・フットサル経験の有無の項目では、東京ヴェルディと比べてサッカー・フットサル経験者の観戦率が高いことが分かった。

目的2に関して、チームと地域の間には、有意な正の相関関係があることが分かった。府中市民は、チーム愛着と地域愛着の測定項目で高い平均値が示された。府中市外に住む観戦者は、チーム愛着の測定項目では高い平均値が出たが、地域愛着の測定項目では平均値が低かった。

また、ファンの観戦歴が長くなるにつれて、チーム愛着と地域愛着が高くなる傾向がみられた。このことから仮説1「応援継続年数の長いファンほど、チームへの愛着が高い」、仮説2「応援継続年数の長いファンほど、ある一定の地域への愛着が高い」ことが証明された。

【考察】

各質問項目で東京ヴェルディ観戦者と府中アスレティックFC観戦者を比べた結果、府中アスレティックFCは府中市民をコアターゲットに、府中市に根付く地域密着型クラブとして、発展していく見込みがあることがわかった。

そのための課題として、今後フットサルが「みる」スポーツとしての認知をさらに拡大させるために、SNS (クラブ公式twitter、クラブ公式Facebook、クラブ公式LINEなど) やテレビといった確かで接しやすい情報発信をする必要があることが明らかになった。

さらに、今後府中市以外に居住する観戦者の地域愛着を、府中アスレティックFCの試合やその他の活動を通して高めていくことが課題の一つであることが分かった。

そして、情報入手手段で知人・友人・家族の割合が高いことも踏まえると、観戦歴の長いファンは新規のファンを増やす可能性を持っているとも言える。そのため、観戦歴の長いファンを減らさないことも課題の一つであることがわかった。